

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373000621		
法人名	社会福祉法人 清風会		
事業所名	グループホーム あげぼの		
所在地	熊本県葦北郡津奈木町大字岩城484		
自己評価作成日	令和2年10月 1日	評価結果市町村報告日	令和2年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号		
訪問調査日	令和2年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム内からも国道3号線を行きかう車や町の象徴である重磐岩を眺める事ができるのどかな環境にあります。和館・絆館ともに和風造りで穏やかな雰囲気を感じ取れると思います。入居者の個々の能力を見極め一人ひとりの思いを大切に、自由に安心して暮らして頂けるよう支援しています。地域に対しても開放的なホームを目指し地域行事等に参加行ない地域住民との交流を図っていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「尊厳・受容・自由・安全・やすらぎ・自立支援」を理念のもと、入居者それぞれの「出来ること」を大切に生活が営まれています。ユニット間で介護度の違いはある様ですが、入居者それぞれに対して「集中してできること」や「楽しんでもらえること」を職員が見出し、共に時間を過ごしながらも個性のある日々の生活の様子が聞かれました。今年度は感染症対策の観点から外出もままならないとされる中、「近隣のドライブ」や、「ちょっとそこまでの買い物」等、従来からの生活が変わらず送られています。ユニット間での往来もあり、入居者同士のご近所付き合いもされています。地域からの清掃ボランティア受入れや避難訓練への協力等、安心・安全に配慮しながらも地域との関わりも継続されていました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフの目につく所に貼って業務を行なっている。月に一度理念の振り返りを行なっている。	理念は事業所に掲示され、事業所理念とスタッフ理念においては、全員参加の毎月の会議時に振り返りが行われている。職員入職時には「事業所の考え」として理念について説明をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事が減り、交流も少なくなっている。地域の清掃活動にスタッフ参加したり、散歩時の挨拶や野菜等をもらったりの交流程度である。	運営推進会議や近所付き合い、清掃ボランティア等、従来からの地域とのつきあいを継続している。例年、中学生福祉体験の受入れも行っている。今年度は感染症予防の観点から地域行事は減ったものの、数か月毎の清掃ボランティアや日常的な交流は従来通り続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座のキャラバンメイトとしてスタッフ数名参加して小中学校や地域に出向いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状態等報告して、他の職種の方にアドバイスをもらいケアに活かしている。	町・地域も交えた運営推進会議では、事業所や入居者の状況報告を行っている。年初の会議では、事業計画、事業所理念、スタッフケア理念とも議題としている。今年度は感染症予防のため書類での開催としている。	これまでの取組みにより日頃から地域との関わりも多くなります。今年度は書面開催であることから、書面送付後等、運営推進会議参加の各方面から意見をj得る機会作りを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に住居課長の参加あり、事業所の報告や助言等頂いている。	例年、運営推進会議には毎回町からの参加があり、事業所の取り組み等を伝えている。今年度は感染症対策のこともあり、運営推進会議開催の可否を始めとし、例年以上の相互からの報告・連絡・相談が見られる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関や中通路も開錠し自由に行動できるようにしている。委員会を設置しており、苑内研修や資料回覧またホーム内での会議でも話し取組んでいる。	法人の身体拘束適正化委員会に事業所職員が参加し、委員会の内容は職員会議を利用し共有している。事業所内でも研修会を開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内研修でも取組み話しあい、虐待につながるような言葉使い等聞かれた時はお互い注意するようにしている。		

グループホームあけぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会が少なく、町報や母体からの回覧等にて勉強し学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書及び重要事項等の説明を行ない、不安や疑問点を尋ね理解・納得して頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日常の会話の中で要望を聞き取り、玄関に意見箱設置し家族や外部者の意見要望を取入れるようにしている。	職員からの入居者への日々の関わり・寄り添い・声掛けにより意向を把握している。家族には、入居者の担当職員から毎月状況報告を送っており、意見を出しやすい関係作りにも繋がっている。	訪問中も入居者と寄り添う職員の普段の様子が窺えました。感染症対策で面会が少なくなる状況であることから、家族が意見・要望を表すことが出来る機会作りを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回和・絆館合同での会議を行ない意見提案を出し合い、母体での職員会議にて報告、反映させている。	毎月のユニット間合同会議には基本的に全職員が参加し意見を述べる機会を持つ。管理者も日頃からケアにあたっているため、日常的な職員の意見を出しやすい環境にある。職員の意見により業務改善に繋がってきた例も多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間や勤務内容等職員の負担にならないよう配慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ感染症拡大防止の為、今年度は法人内外での研修会でできていない。資料の回覧や部署ごとに出来ることを行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流会等できなかった。同業者での管理者会議にて災害時の対応等会議行なった。		

グループホームあけぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前や介護保険認定更新前には本人や家族に要望など尋ねている。日々の会話の中でも聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にホーム内の見学や本人や家族等不安や困っている事を聞き、サービス内容に反映できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望を伺い要望を理解し、担当ケアマネ等に情報をいただき共有するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る作業活動は積極的にやって頂き、困難な事はスタッフ一緒に出来るよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族一緒に参加できるような行事計画し楽しく過ごしてもらえるようにしている。また受診後の報告も行なっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加したり、近くのスーパーへ買い物出かけたりして、地域の方や知人より声かけ話しかけて頂いている。	入居者は町の住民であったことから、事業所での生活は地域での馴染みの生活そのものである。スーパーや近隣商店への買い物は日常的に行われており、地域住民の来訪も見られる等、自宅での生活の延長である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し職員が仲介役となり共同生活が楽しく過ごせるよう支援している。		

グループホームあけぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族や医療機関等情報交換し、入所先探したり入所手続き等行ない家族の支援行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で本人の思いや希望を把握するようにしている。意思表示が困難な方の場合家族等へ相談している。	毎月の職員会議では、入居者の日々の様子・状況を共有している。日々の生活では、これまでの生活歴や日々の体調、好み等により声掛けを工夫し、選択の場面を設ける等で意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族またケアマネに聞いたりして本人の馴染んだ暮らしに近づいた生活環境を把握しケアに活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌や連絡ノートの活用また会議等で情報共有し、スタッフ全員で現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望家族の意見等を毎月の会議でケース検討行ないプラン作成に努めている。	月1回担当者が、3ヶ月毎には計画作成者も交え評価・モニタリングを行う。毎月の職員会議では入居者の状況等を共有し、職員間の意見も出し合っている。体調や状況の変更時には都度ケース検討会を行い、必要に応じて計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報共有し生活記録や連絡ノートを活用し検討行ないながら介護計画見直し行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の状況など、その時に必要な支援を提供できる様支援している。		

グループホームあけぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は外出行事活動行えていないが地域での除草作業参加や地区のボランティアの方のホームの清掃活動等支援して頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を継続し、状態変化時は家族に相談し適切な処置を受けられるようにしている。	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援しており、現状の入居者では5医療機関の通院・往診による受診を支援している。通院が必要な場合、出来るだけ家族付き添いを依頼しているが、職員による対応も行っている。場合により、法人からの看護師の支援もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の看護師に相談し助言等いただき、状態変化時は看護職員に報告相談するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には足を運び情報提供行ない、退院に向けて状態の確認等聞いたりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人家族の要望を尊重し、主治医や家族ホームで話し合いを行ない支援できている。	重度化や終末期に向けた方針及び事業所の対応は、入居時に説明し同意を得ている。事業所では、その時々本人の状態に適した場所を生活の場とする方針である。現状では実際にその時期を迎えた際には入院を希望される例が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、実際急変時の対応訓練はできていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間避難は実際難しいことが実感でき、地域の方からも気にかけてもらっているのが今回災害時にわかり避難方法の再検討を感じた。	火災が発生した際には火災通報装置により地域にも連絡が届くようになっている。訓練には地域や防災業者の参加もあり、開催後は交えての反省会も行っている。台風等自然災害の備えとして、年1度は法人関連施設へ全員での宿泊訓練を継続している。	地域等を交えての訓練を継続しており、毎年の反省会から蓄積された防災への意識の高さが聞かれました。今年の水害では、法人が地域の避難所であることからの課題も確認できました。

グループホームあけぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないよう気をつけているが、気になる言葉使いなどはスタッフ同士で注意するようにしている。	入居者との日頃の寄り添い・関わりの中で、特に排泄や入浴時には配慮した対応を行っている。職員は、理念・スタッフ理念の共有・振り返りから入居者への言葉遣い等の大切さを実践に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で意向を聞き決めてもらったり、声掛けする時に本人に決めてもらえるように言葉かけしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望に添った暮らしをと思っているが、その日のスタッフの勤務体制等にて十分とはいえない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立されてる方は化粧や衣類選び等されおしゃれされている。他の方も身だしなみ整えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日等食べたい物を聞いたりして、提供できるようにしている。食事片付けなども一緒にこなしている。	ユニットそれぞれに、献立作りから調理まで職員で手作りしている。地域の野菜もふんだんに使った食事は好評で、誕生日や行事食等好みや季節も味わう事ができる。季節の行事や誕生日の食事作りは入居者の手伝いもあり、皆で楽しむ様子も見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェック行なっているが、水分量は定期的に提供し、摂取少ない方は好みの飲物を提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されてる方は声かけにて行っておられ、介助必要な方はスタッフで支援している。義歯の消毒は週一スタッフで行なっている。		

グループホームあけぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のある方など排泄パターンを把握し声かけしトイレでの排泄できるよう支援している。排泄チェック表も活用している。	入居者の状況もそれぞれで、自立・声掛け誘導等様々であるが、出来るだけ昼間はトイレでの排泄を継続できるような支援を行っている。夜間も入居者の状況を個別に検討し、安易なオムツへの移行は行っていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取に注意し、また主治医に相談し緩下剤の処方してもらったりと予防・調整行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を活用し受診日や外泊等前日には入浴してもらっている。入浴拒否ある時は時間置いたりして声かけするようにしている。	体調や意向を確認しながら、週2～3回の入浴を支援している。拒否が強い場合には、声掛けの仕方や入浴時間等を検討し、工夫を重ね、入浴に繋がるよう対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し昼夜逆転ならないよう日中の休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合は連絡ノートに記入し情報共有おこなっている。状態変化等の確認も行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今年は外出の機会少ないが、献立作成時に入居者のリクエストを多く取入れたたり、リビングより見える所に花や野菜を植えたりと成長・収穫を楽しんでもらえるように心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人からの外出の希望は少ないが、地域内のドライブ等行なっている。	買い物やドライブ等は日常的に行われている。今年度は感染症対策により地域行事が中止となったが、事業所での生活は変わることなく営まれている。	

グループホームあけぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理できる方はお金持っておられ、散髪代等自分で支払っておられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された時には対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは季節に応じた壁飾りを行ない観葉植物や花を飾り楽しんでもらっている。	玄関には昔ながらの生活用品や季節の花が飾られ、地域を代表する山が見える事業所からの景色は、入居者の生活に馴染んだ風景である。掃除が行き届いた2ユニット間ではご近所付き合いのような往来も見られ、入居者にとって自宅での生活そのものである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり好まれる場所があるようで、そこで日中過ごされている。一人になりたい時には居室で過したりと自由にされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドの配置等家族と相談したり、本人の希望に添った配置にしている。	ベッドと筆筒が備え付けられた居室は、身体状況により壁に手すりが付けられたり、床にマットを敷いたり、安全にも配慮している。置物や生活用品等、それぞれの生活に合わせた物が持ち込まれ、家族の関わりも感じる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路には物を置かないように心がけている。トイレの場所はわかるように表示している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングやトイレに理念掲示し常にスタッフの目につくようにしている。業務に行き詰まりを感じた時一呼吸置き理念とはと考えることも多々ある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出行事や散歩等も少なくなっている。地域の清掃活動にはスタッフ参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の訪問等できず、体験学習の受入れ等もできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は文書にて入居者状態報告等行なっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に住居課長の参加あり、事業所の報告や助言等頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は開錠し、自由にしてもらっている。スピーチロックにならぬよう、お互いに注意しあうようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止を含め身体拘束委員会にて研修会・勉強会もち、スタッフ参加し虐待防止に努めている。		

グループホームあけぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会が少なく、町報や母体からの回覧等にて勉強し学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に本人・家族含めての十分な説明を行ない納得していただいている。改定・変更時には文書通知行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等にて意見・要望聞き職員全員で共有し運営に反映させている。玄関に意見箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回和・絆館合同での会議を行ない意見提案を出し合い、母体での職員会議にて報告、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夜勤や遅出勤務等の手当が配慮されており、必要に応じて勤務内容の変更等考慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内研修や法人以外の研修にも勤務をあわせ参加できるようにしている。今年度は文書回覧が多くなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ブロック会での勉強会や交流会に参加している。		

グループホームあけぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にホーム内見学や話し伺い情報収集行ない、理解して頂き入所して頂くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にホーム内の見学や本人や家族等不安や困っている事要望・意見等聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望を伺い、担当ケアマネ等に情報をいただき対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日の生活の流れとして入居者の状態にあわせ、無理のないよう作業活動行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染防止の為面会制限あり外出活動も自粛しているが、月一回家族へお便りにて状態報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩や買い物を行なっている中で地域の方や知人に声かけて頂いている。希望あれば馴染みの散髪屋連れて行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のトラブルないよう、利用者同士の性格や関係を把握し会話の仲介や座る席等も検討し穏やかな雰囲気作りに努めている。		

グループホームあけぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族からの相談等あれば対応できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から要望聞き、できるだけ対応している。困難な場合家族やスタッフ間で話し合い検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴・情報を本人や家族等に聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌や記録に一日の過ごし方や心身状態を記入し、申し送りや会議での情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族と話し合い意見や要望を取入れ、ケース検討でスタッフ話し合い介護計画の作成おこなっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を基にモニタリング行ない職員が情報共有できるよう、いつでも閲覧できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の状況など、その時に必要な支援を提供できる様支援している。		

グループホームあけぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアより清掃作業して頂いたり、運営推進会議にも参加してもらい助言等いただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を継続し、家族やDr等相談し適切な医療を受けられるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態悪化時等に母体施設の看護師へ状態報告し相談助言頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供行ない、入院中も病院へ出向き情報等頂くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人家族等と話し合いの場を持ち、ホームにてできる範囲を説明し理解してもらい支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルを事務所に置き職員全員がいつでも閲覧できるようにしている。急変時の対応等勉強会・研修会には参加するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災通報訓練を年二回実施し、また風水害等自然災害による避難訓練も年一回行なっている。職員全員が役割決めマニュアル作り話し合っている。		

グループホームあけぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関する研修へ参加し、月一回理念の振り返りを行ない理念に沿った支援を行なえるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方の希望を尊重し、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の一人ひとりのペースを大切に活動・暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望による洋服選びや散髪等支援行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方の好き嫌いや食事形態等考えながら一緒に献立作りしたり食事の準備片付けして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの摂取状態による食事量を提供し、担当医師に相談し栄養補助食品等で対応している方もおられる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や食後に一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを行ない、週一回は義歯消毒行なっている。		

グループホームあけぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄できるよう誘導支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトなどの乳製品の提供行ない、主治医に相談し緩下剤処方して頂いたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を活用しながら個人の希望聞きながら、清潔保持に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望のもと居室にてゆっくり休んでもらっている。夜間の睡眠状態をみながら昼夜逆転にならないよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容を理解しようと心がけている。服薬支援確認行ない状態変化に注意し受診時に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じての外出活動を行なっているが全員での参加は段々と難しくなっている。今年度は外出活動できていないので室内での楽しみができればと思っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出や買い物等行なっていたが今年度は頻度少なく、ホーム近くの散歩くらいである。		

グループホームあけぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理所持されている方は少ない。希望時は一緒に買い物でかけ自分で支払いされている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙書かれる方はおられないが、希望あれば家族への電話対応行ない支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花や装飾にて落ち着いた雰囲気作りしている。窓を開けたりして自然の風を入れ季節を感じてもらえるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子ソファ等の配置に気を配り、気の合った利用者の方同士がゆっくりと過ごせるようなスペース作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望を聞きながら慣れ親しんだ家財を持参してもらい、居心地良い生活環境作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路には物を置かないように心がけている。利用者のできること・わかることを把握しホーム内で安全で自立した生活が送れるよう目印や表示の工夫している。		

2 目 標 達 成 計 画

グループホームあけぼの

作成日 令和2年12月22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	利用者や家族が意見・要望を表せる機会が少ない。	利用者・家族の意見・要望を聞き、運営に反映させる。	利用者は日常の会話の中で要望を聞き、家族へはアンケート等を実施し内容検討する。	6ヶ月
2	49	コロナ感染症防止の為、地域行事の中止等により外出の機会が減り楽しみが少ない。	ホーム内でも楽しみを持てる行事を定期的に行なう。	可能な外出を継続し、室内でのゲームやおやつ作りなど計画する。	3ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。